

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-27	実施計画番号	34	事業開始年度	平成27年度
事務事業名	子どもビブリオバトル			事業終了年度	平成28年度
担当課名	市民図書館			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	市内の小学校4年生～6年生を対象に、参加者同士で本を紹介し合い、最も読みたい本を投票で決める催しである「ビブリオバトル」を実施する。				
事務事業の目的	子どもたちの読書離れが課題とされる中、新たな本への出会いを通して読書の魅力を知ること、図書館利用の向上を図る。				
実施状況	第1回 7月30日 発表者 5人 観覧者27人 第2回 12月23日 発表者10人 観覧者23人				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		10	10
	人件費(千円)	0	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	29	29

【指標】

活動指標	活動指標名①		ビブリオバトルの実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回数	0	2	2
	活動指標名②					
成果指標	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回数	0	2	2
	成果指標名①		ビブリオバトル発表者の人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人数	0	20	20
			人数	0	15	20
			達成度(%)	0%	75%	100%
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人数			
		人数				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">子どもたち読書離れが課題とされる中、子どもの読書啓発事業として効果があることから市民図書館が実施する必要がある。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	子どもたち読書離れが課題とされる中、子どもの読書啓発事業として効果があることから市民図書館が実施する必要がある。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
子どもたち読書離れが課題とされる中、子どもの読書啓発事業として効果があることから市民図書館が実施する必要がある。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ビブリオバトル事業を今年度2回実施し、子どもたちに浸透してきている。参加者も増えており、事業の見直しの余地はない。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	ビブリオバトル事業を今年度2回実施し、子どもたちに浸透してきている。参加者も増えており、事業の見直しの余地はない。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	ビブリオバトル事業を今年度2回実施し、子どもたちに浸透してきている。参加者も増えており、事業の見直しの余地はない。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業予算については、最小限に留めながら事業を実施している。事業実施に当たり他団体との連携や経費等検討する余地がある。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	事業予算については、最小限に留めながら事業を実施している。事業実施に当たり他団体との連携や経費等検討する余地がある。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	事業予算については、最小限に留めながら事業を実施している。事業実施に当たり他団体との連携や経費等検討する余地がある。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当市民図書館が市内各小学校を通じ、発表者を公募をしているため適正である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	当市民図書館が市内各小学校を通じ、発表者を公募をしているため適正である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
当市民図書館が市内各小学校を通じ、発表者を公募をしているため適正である。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

平成27年度から始めた事業であり、成果が表れるまで時間がかかることから継続しながら判断していきたい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

子どもたちに読書の魅力を知ってもらうために、各学校との連携を密にし、多くの子どもたちに、発表・観覧してもらいながら目標達成に努めたい。